

性 役 割 に つ い て (I)

猪 野 郁 子* 荆 尾 千 恵 子**

Ikuko INO and Tiekō KATARAO
A Study on the Sex-role (I)

I は じ め に

人は生まれながらにして、生物学的にいずれかの性を持っている。この肉体的な形状や機能などによる生物学的な性差とともに、その発達過程で、自分の性に特徴づけられた行動様式や物の考え方・感じ方などを取得していく。

一方の性に他方の性よりもより特徴づけられている行動様式や物の考え方・感じ方を「性役割」と呼んでいる（「性別役割」という表現も用いられているが、「性役割」と同義語である。心理学の分野では「性役割」が一般に使用されているので、ここでも「性役割」を使用する）。

この性役割の取得には、D・B・リンによると、(1)生物学的要因 (2)親子関係 (3)文化的強化の3要因が相互に作用しあっているとされている^①。

柏木は、自分の性にどのような役割が期待されているのか認知し、さらにその役割をどのように演ずるかの学習（性役割学習）は、子どもが出生以来遭遇するさまざまな社会的場面、対人関係の中でなされていくこと。中でも、親との同一視—特に同性の親をモデルとする同一視は最初で重要な機会である^②、と述べている。

性役割の取得や学習は、年齢が幼なければ幼ない程、親の養育態度や価値観などが大きく影響すると言えよう。

もちろん、親自身のもっている男性役割観・女性役割観には、自らが育ってきた社会の文化的価値に大きく左右されているから、時代や文化が性役割取得に影響していることは言うまでもあるまい。

さて、現代、子どもや子ども社会に起っている様々な問題行動の背景に、親子関係の希薄化と親の役割の欠如

—特に父親の役割の欠如があげられている。

パーソンズによると、父親とは家庭（子育て）で、家庭と社会を結ぶ役割、社会の価値や禁止を子ども達に取り入れさせる役割—道具的役割を果たす人であると考えられている^③。

そして、M. E. ラムが、いくつかの研究結果から、性にふさわしい行動を取らせようとする時には、母親よりも父親の方がより関与していることを見い出しているように^④、道具的役割を果たす父親は子どもの性役割発達に大きく関わるようである。

父親がその任務である道具的役割を果たすことが、男児に「男らしさ」、女児に「女らしさ」を育てるとするならば、父性欠如はどういう結果をもたらすのであろうか。

この点を明らかにしていくために、まず、現代、「男らしさ」「女らしさ」あるいは男女の性役割がどのように認識されているか把握する必要があるだろう。

勿論、男児が「男らしく」女児が「女らしく」ある必要があるかいなかについての議論も存在するが、研究をすすめていく上で結論が出てくるものと思われる。

そこで、男女中学生と性役割取得に母親よりも影響のある父親を対象に、「男らしさ」「女らしさ」をどのようにとらえ、各々の性役割をどう認めているのか。父親と生徒の間にどのようなちがいが見られるのか。男女生徒の間ではどのようにことなるのかの3点についてまずみるために本調査を実施した。

II 方 法

本調査は、父親への二つの質問紙と生徒への質問紙から成っている。

その一つは、父親への「男らしさ」「女らしさ」への意識と育て方について求めるものである。

* 島根大学教育学部家政学研究室

** 安来市立第三中学校

表1 対象者の概観

父親の職業		父親の年齢		生徒の兄弟姉妹	
会社員・公務員等	167人	～35歳	3人	男女のきょうだいがいる	195人
自営・商工業等	79人	36～40	56人	男の兄弟のみ	71人
農・林・漁業	67人	41～45	153人	女の姉妹のみ	59人
その他	26人	46～50	86人	一人っ子	14人
		51～	41人		

他方は、柏木による「性役割期待調査」であり⁽⁵⁾、父親・生徒双方に使用した。

この「性役割期待調査」は、身体的、知的、性格的、社会経済的な面でのさまざまな領域にまたがり、お互いに重複しない形容詞34項目から成っている。これら34項目について、その特性が男女それぞれにどの程度望ましいと思うかを、「非常に望ましい、望ましい、やや望ましい、どちらともいえない、やや望ましくない、望ましくない、非常に望ましくない」の7段階で評定を行うものである。

今回は、調査方法を明確に伝わせるために、男子のみもつ父親には、「男性としてどの程度望ましいか」を、女子のみもつ父親には、「女性としてどの程度望ましいか」を、男女双方の子どもをもつ父親には、男女それぞれについて記入させた。又、中学生には、自己の性についてどの程度望ましいか記入させた。

対象として、大田市立大田二中の一年生から三年生までの男女生徒635人とその父親を選んだ。選択理由は、後でふれるように、対象となった父親の職業に巾が広いことから、普遍的な考えがとれるとみたからである。

回収率95%と回収状況は良かったが、父親以外の回答者や二つの調査用紙への回答に不備のある者がいたので、ここでは、父親側の二つの調査用紙がそろっており、又、子どもの回答のある339組について結果を報告する。

表1は、対象とした父親の職業・年齢並びに生徒の兄弟姉妹についてまとめたものである。

会社員・公務員が半数を占めているが、残りは自営・農・林・漁業に従事している。漁業従事者の多くは、一年の大半を船の上ですごしているため、調査時不在者が多く、このことが父親の回答者を少なくしている。

父親の年齢は40代前半が最も多く、40代後半、30代後半、50代前半の順となっている。又、半数以上の家庭は男・女の子どもを持っている。

Ⅲ 結果および考察

(1) 父親のみ「男らしさ」「女らしさ」

父親は、どういう状態を「男らしい」あるいは「女らしい」と考えているのであろうか。

予備調査を行った結果から、「男らしさ」を表わすものとして「包容力のある」「活発である」「実行力がある」「責任感がある」「意志が強い」「決断力がある」の6つの形容句を、同様に「女らしさ」として「やさしい」「あたたかさがある」「明朗である」「しとやかである」「行儀がよい」「きれい好きである」を選んだ。

さらに、「女らしさ」を表わす形容句として選んだ6項目の中から、最近、男性にも要求されている「やさしい」「あたたかさがある」「明朗である」の3項目を「男らしさ」に加え、「女らしさ」には「男らしさ」の6項目の中から「責任感がある」「意志が強い」「決断力がある」の3項目を加えて、各々9項目とした。

この9項目の中から、父親の考える「男らしさ」「女らしさ」に近い項目を3項目選択させた。

結果をまとめたものが図1である。

父親の考える「男らしさ」とは、責任感があり、意志が強く、決断力・実行力があるということになる

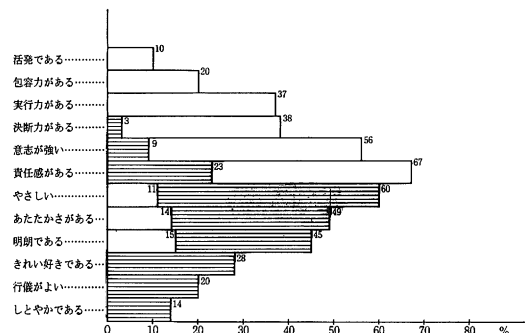


図1 父親の考える「男らしさ、女らしさ」

う。

女性の側から男性への要求の高い「やさしい」「あたたかさがある」「明朗である」は、「男らしさ」としては1割強の選択であった。

父親の考える「女らしさ」は、やさしく、あたたかみがあり、明かるいことであると言えよう。「男らしさ」と同様、最近女性にも要求される「責任感がある」「意志の強い」「決断力がある」は低い選択率であった。

このように見てくると、「男らしさ」「女らしさ」とは、と問われた場合、従来から考えられている「男らしさ」＝対社会的・行動的なもの、「女らしさ」＝家庭的・受身的なものとして把える傾向があると言えるのではなからうか。しかし、「女らしさ」＝家庭的・受身的というのは、「男らしさ」＝対社会的・行動的というのに対してであって、単に従順でおとなしい「女らしさ」を示していないところが現代的であると言えるのではなからうか。

それでは、父親はわが息子・娘をどの程度「男（女）らしい」とみているのであろうか。非常に主観的に大まかに分類すると、表2に示すように、大半の父親はわが子を「ふつう」とであるとみなしている。又、「男（女）らしくない」とする父親よりも、「男（女）らしい」とする父親の方が多いこと、娘を「女らしい」とする父親よりも、息子を「男らしい」とする父親の方が多いことは注目される。

表2 わが子を「男らしい・女らしい」と思うか
人数

	男 女	男 女	男 女
男子の父親	68	180	11
女子の父親	48	174	18

ところで、父親たちは、息子や娘たちを「男らしく・女らしく」育てているのであろうか。表3は、「男（女）らしく育てたか、そのために何か努力したか」どうかをみたものである。

表3 わが子を「男らしく・女らしく」育てたか。育てるための努力をしたか。 人数

	わが子を「男らしく・女らしく」		「～らしく」育てるために	
	育 て た	育 て な い	努 力 し た	努 力 し な い
男子の父親	198	54	105	142
女子の父親	128	103	57	174
	$X^2=29.466$	$P<0.001$	$df=1$	$X^2=16.946$ $P<0.001$ $df=1$

息子を持つ父親の79%にあたる者が「男らしく」育てたと答えている。それに比べ、娘を「女らしく」育てたと答えた父親は55%であり、両者の間に有意な差異がみられる。

又、半数以上の父親は、子どもが「～らしく」育つための特別な努力はしていないが、何らかの努力をしたと答えた者が男子の父親40%、女子の父親24%と有意に男子の父親が多い。

つまり、父親は娘を女らしく育てることよりも、息子を男らしく育てることに力を注いでいると言えよう。

このことについて、D. B. リンは、ランスキーの研究結果を報告している⁶⁾。つまり、親一特に父親は、男児が女兒の玩具で遊びたがる時、女兒が男児の玩具で遊びたがる時以上に強く否定する傾向があるということである。

洋の東西を問わず、父親は息子を「男らしく」することに熱心であると言えよう。

では、どういう努力がなされているのであろうか。自由記述の中から拾うと、息子に対しては、「自分の言行に責任をもたせる」「最後まで責任をもってやりとげさせる」等「責任感」を養う努力や「スポーツで心身をきたえる」等「根性」を培う努力をはじめとして、父親の仕事の手伝いを通して父親の働く姿を見せ、手本にさせるなどが「男らしく」育てるに良い方法だとしている。そのために、時には暴力や体罰も必要だとしている。

娘に対しては、行儀・言葉づかいなど礼儀作法、家事等母親の手伝いをさせることであり、又、茶道・琴などの習い事をさせる、としている。

こうした、「～らしく」育てるための努力の内容にも明らかに男女のちがいがみられる。

しかし他方、男の子が料理を作ることについては、別に何とも思っていない、どちらかといえば「好ましい」とみている。ところが、女の子があぐらをかくことについては、圧倒的に「好ましくない」としている（表省略）。

以上、父親は「男らしさ・女らしさ」をどう把えているのか、子どもの養育とも絡めてみてきたのであるが、「～らしさ」とは、と問われた場合、男は積極的に責任

表4 父親の性役割期待(1)上位10位

息 子			娘		
順 位	項 目 名	得 点	順 位	項 目 名	得 点
1	健 康 な	6.57±0.92	1	健 康 な	6.71±0.64
2	忍 耐 強 い	6.15±0.91	2	愛 情 豊 かな	6.15±0.85
3	視 野 の 広 い	6.05±0.96	3	家 庭 的 な	5.99±0.96
4	仕 事 に 専 心 的	5.92±1.07	4	行 儀 の よ い	5.96±0.88
5	経 済 力 の ある	5.87±1.05	5	忍 耐 強 い	5.94±0.93
6	活 発 な	5.86±0.83	6	気 持 の こ ま や かな	5.93±1.03
7	積 極 的 な	5.81±1.00	7	視 野 の 広 い	5.91±0.99
8	指 導 力 の ある	5.77±1.09	8	仕 事 に 専 心 的	5.72±0.99
8	愛 情 豊 かな	5.77±0.91	9	頭 が よ い	5.54±0.98
10	頭 が よ い	5.69±0.96	10	道 徳 的 な	5.53±0.93
			10	か わ い い	5.53±0.95

感があること、女はやさしくあたたかいことというように、従来からの考え方がやはり強く出るようである。又、いくつかの研究報告にも示されるように、父親は娘が「女らしく」育つ努力よりも、息子が「男らしく」育つ努力をしていることも明らかとなった。

(2) 父親の期待する性役割

父親は、男女各性の役割として、どういうことに期待しているのだろうか。性役割期待調査の結果から、期待度の大きい順に10位までを取り出しまとめたものが表4である。

これによると、10項目中6項目までは男女ともにみられる項目である。これら6項目「健康な」「愛情豊かな」「忍耐強い」「視野の広い」「仕事に専心的」「頭がよい」は、男性とか女性とかいうより前に人間として備えることが望ましいと考えられていると言えよう。

残りの4項目—息子に期待の高い項目は、「経済力のある」「活発な」「積極的な」「指導力のある」であり、やはり社会生活に必要な要素が強いと言え、娘の場合、「家庭的な」「行儀のよい」「気持のこまやかな」「道徳的な」「かわいい」であり、男性の後にいて細やかな心配りをする家庭的な要素が期待されている。

息子・娘の間で、父親の期待に有意な差がみられた項目をまとめたものが表5である。T検定の結果からt得点の高い順に並べた。

息子において、t得点が最も高い項目は「女性をリードする」である。父親の期待点そのものは、それ程高い得点ではないが、娘に「男性に依存的」であれとする父

親の期待点がぐんと低い得点であったために、こうした結果となっている。

この項目と「女性を認める—男性に一目おく」「かわいい」の期待点とt得点から、父親は、息子には女性を認めつつ一歩リードすることを、娘には男性と対等にありつつ「かわいさ」を失なわないで欲しいと期待していると言えよう。

息子に得点の高い項目は、「男らしさ」として選ばれた項目と関係していること、将来社会生活を行っていく上で身につけていることが望ましい項目が多いことが注目される。これに対して、娘に得点の高い項目は、やはり「女らしさ」として選ばれた項目と関連しており、従来から望ましいとされてきた女性像と一致していると言えよう。

(3) 生徒の期待する性役割

中学生という年齢の子どもたちは、自分の性の役割としてどのようなものを望ましいとしているのだろうか。

表6は、父親と同様に、期待度の高い順に10位までとり上げまとめたものである。

これら10項目をみると、男子では9項目、女子では8項目まで父親と一致している(表4参照)。又、男女では6項目が一致している。この6項目は父親からも上っているものである。つまり、中学生の男女も、男性役割とか女性役割ということではなく、人間として備えることが望ましいとして、「健康な」「愛情豊かな」「視野の広い」「忍耐強い」「仕事に専心的」を上位にあげていると

表5 父親の性役割期待(2)

	項 目 名	息子得点	娘得点	t
息子に得点の高い項目	女性をリードする一男性に依存的	4.90±1.10	3.73±1.11	9.31***
	活 発 な	5.86±0.83	5.22±1.00	6.29***
	指 導 力 の ある	5.77±1.09	5.06±0.94	6.07***
	背 が 高 い	5.30±1.09	4.58±1.05	6.04***
	女性を認める一男性に一目おく	5.17±0.99	4.52±1.12	5.45***
	経 済 力 の ある	5.87±1.05	5.19±1.22	5.40***
	意 志 強 固 な	5.34±1.28	4.63±1.40	4.71***
	積 極 的 な	5.81±1.00	5.33±0.93	4.44***
	政 治 に 関 心 の ある	5.17±1.21	4.61±1.16	4.15***
	線 の 太 い	5.34±1.19	4.95±0.99	3.15**
	理 想 を も っ た	5.63±0.95	5.32±0.88	2.92**
	自 信 の ある	5.56±1.00	5.25±1.14	2.57*
	忍 耐 強 い	6.15±0.91	5.94±0.93	2.04*
娘に得点の高い項目	か わ い い	4.29±1.18	5.53±0.93	10.07***
	気 持 の こ ま や か な	5.01±1.28	5.93±1.03	6.94***
	お し ゃ れ な	4.01±1.16	4.88±1.08	6.84***
	行 儀 の よ い	5.24±1.05	5.96±0.88	6.46***
	容 貌 の 美 し い	4.26±0.98	4.97±1.06	6.15***
	家 庭 的	5.32±1.03	5.99±0.96	5.98***
	愛 情 豊 かな	5.77±0.91	6.15±0.85	3.87***
従 順 な	4.74±1.10	5.11±1.08	2.97**	

*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05

表6 生徒の性役割期待

(上位10位)

男 子 生 徒			女 子 生 徒		
順 位	項 目 名	得 点	順 位	項 目 名	得 点
1	健 康 な	6.34±1.04	1	健 康 な	6.48±0.87
2	忍 耐 強 い	5.57±1.21	2	愛 情 豊 かな	6.02±1.05
3	仕事に専心的	5.55±1.20	3	家 庭 的	5.79±1.19
4	活 発 な	5.44±1.19	4	行 儀 の よ い	5.64±1.19
5	視野の広い	5.42±1.13	5	視 野 の 広 い	5.63±1.18
6	理想をもった	5.33±1.13	6	気 持 の 細 や か な	5.58±1.20
7	愛情豊かな	5.32±1.18	7	忍 耐 強 い	5.53±1.20
8	指導力のある	5.28±1.29	8	仕事に専心的	5.47±1.22
9	積極的な	5.27±1.29	9	活 発 な	5.34±1.03
10	経済力のある	5.17±1.33	10	個 性 的	5.26±1.02

言えよう。又、男子生徒は経済的社会的自立に関する項目を、女子生徒は家庭的な項目を上位にあげているが、女子生徒で「活発な」「個性的」が上位に入っている点が注目される。

父親は、女性役割として、かわいく家庭的であることを望んでいたのに対し、女子生徒は、そこに自我を主張できることを期待していると言えるのではなからうか。又、男女生徒とも、父親が上位に入れている「頭がよい」に対しては、それ程高い評価を与えていない。

次に、男女生徒間に有意な差のみられた項目をみたものが表7である。やはりt得点の高い順にまとめた。

34項目中、15項目に有意差がみられた。このうち7項目は男子生徒の方に期待度の高い項目であり、残り8項目は女子生徒の方に高い項目である。又、「社交的な」を除いては、父親の評価においても男女差のみられた項目である。しかし、父親では34項目中21項目に男女差がみられたのに対し、生徒では15項目と少なくなっている。

このように、男女差のみられる項目がほとんど父親の場合と一致しているということは、親と子が同じ期待を持っているとみてよいであろう。特に父親と男子生徒にこのことは言えよう。

それでは、父親と生徒間の評価のちがいはどうなっているであろうか。

(4) 父親—生徒間の性役割期待の一致について

父親の息子・娘への期待差と男女生徒間の各性への期待差は非常に似かよっていたのであるが、全項目にわたって、父親と生徒間にどのような認識の差がみられるかみていくことにする。

男子をもつ父親と男子生徒、女子を持つ父親と女子生徒間での差異である。

父親—生徒間で有意差のみられた項目を、t得点の高い順に10位までをまとめたものが表8である。有意差のみられた項目数は、父親—男子生徒間は29項目、父親—女子生徒間は19項目である。いずれも、父親の方が生徒より高い期待度を示している。

表9は、両者間に有意な差のみられなかった項目をまとめたものである。

一般的に父親の方が高い評価を与える傾向はみられるのであるが、父親—生徒間に差のみられた項目をみると、父親は、どちらかと言えば、自分の人生経験や社会経験から評価を与えているのに対し、生徒は理想的に評価していると言える。

特に、男子生徒の場合、5項目を除いて差がみられる

表7 男女生徒間に差のみられる項目(生徒評価による)

	項 目 名	息 子 得 点	娘 得 点	t
男子生徒に高い項目	女性をリードする—男性に依存的	4.53±1.34	3.99±0.95	3.89***
	背 が 高 い	5.11±1.40	4.55±1.12	3.82***
	女性を認める—男性に一目おく	4.77±1.17	4.29±1.03	3.76***
	線 の 太 い	4.90±1.25	4.42±1.15	3.44***
	意 志 強 固 な	4.86±1.32	4.39±1.25	3.16**
	自 信 の あ る	5.06±1.23	4.62±1.30	3.03**
	政 治 に 関 心 の あ る	4.64±1.50	4.18±1.26	2.80**
女子生徒に高い項目	気 持 の 細 や か な	4.65±1.22	5.58±1.20	6.73***
	お し ゃ れ な	3.62±1.32	4.57±1.14	6.61***
	家 庭 的	4.90±1.16	5.79±1.19	6.60***
	か わ い い	3.93±1.24	4.83±1.19	6.38***
	愛 情 豊 か な	5.32±1.18	6.02±1.05	5.36***
	行 儀 の よ い	4.98±1.27	5.64±1.19	4.66***
	容 貌 の 美 し い	4.28±1.06	4.53±1.03	2.08*
社 交 的 な	4.82±1.12	5.10±1.21	2.02*	

*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05

表8 父親と生徒の認識の差(その1)

		項 目 名	父 親 の 得 点	男 子 生 徒 の 得 点	t
父 親 と 息 子	視 野 の 広 い	6.05±0.96	5.42±1.13	5.70***	
	経 済 力 の あ る	5.87±1.05	5.17±1.33	5.62***	
	質 素 な	5.18±1.05	4.57±1.15	5.28***	
	忍 耐 強 い	6.15±0.91	5.57±1.21	5.19***	
	道 徳 的 な	5.65±1.05	5.03±1.26	5.07***	
	社 交 的 な	5.36±0.98	4.82±1.12	4.91***	
	積 極 的 な	5.81±1.00	5.27±1.29	4.47***	
	融 通 性 の あ る	5.19±1.01	4.70±1.14	4.37***	
	自 信 の あ る	5.56±1.00	5.06±1.23	4.30***	
頭 の よ い	5.69±0.96	5.14±1.46	4.28***		
		項 目 名	父 親 の 得 点	女 子 生 徒 の 得 点	t
父 親 と 娘	か わ い い	5.53±0.95	4.83±1.19	5.27***	
	忍 耐 強 い	5.94±0.93	5.33±1.20	4.75***	
	質 素 な	5.29±1.15	4.59±1.27	4.68***	
	融 通 性 の あ る	5.34±0.98	4.74±1.09	4.65***	
	頭 が よ い	5.54±0.98	4.98±1.13	4.30***	
	自 信 の あ る	5.25±1.14	4.62±1.30	4.22***	
	線 の 太 い	4.95±0.99	4.42±1.15	4.01***	
	謙 遜 な	4.99±1.09	4.51±0.94	3.79***	
	容 貌 の 美 しい	4.97±1.06	4.53±1.03	3.38***	
政 治 に 関 心 の あ る	4.61±1.16	4.18±1.26	2.86**		

*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05

ことから、この傾向が顕著であると言えよう。この点、女子生徒の場合は、男子生徒に比べより現実に即して評価していると言えよう。

又、父親は、芯がしっかりしている上に、人と交わるために求められる社交性や道徳性を含めた要素を期待しているのに対し、男子生徒は、「質素な」「融通性のある」「社交的な」要素は理解されにくいと言えよう。

女子生徒の場合、父親は、謙虚でかわいい中にも芯が強く、社会にも目をむけることの出来る女性を期待しているのに対し、従順とかかわいいとかには抵抗を感じている。しかし、先にも述べたように、社会一般が女性にどういう点を期待しているかを男子生徒よりはよくつかんでいると言える。

IV ま と め

中学生とその父親を対象に、「らしさ」や性役割期待について、どのように認識し、親子間にどんなずれがあり、又、男女生徒間にどのようなちがいが存在するのかについてみてきた。

その結果、次のようなことが言える。

(1) 父親は、「男らしさ」とは積極的に責任感があること、「女らしさ」とはやさしくあたたかみのあることと扱っている。

(2) 父親は、娘が「女らしく」育つ努力よりも、息子が「男らしく」育つ努力をしている。

(3) 息子が「男らしく」育つ努力として、父親の働く

表9 父親と生徒の認識差(その2)

父親と息子	項目名	父親の得点	男子生徒の得点	t
	容 貌 の 美 しい	4.26±0.98	4.28±1.06	0.21
	現 実 的	4.88±1.06	4.82±1.14	0.49
	個 性 的	5.15±1.05	5.03±1.15	1.09
	背 が 高 しい	5.30±1.09	5.11±1.40	1.46
従 順 な	4.74±1.10	4.54±1.07	1.82	
父親と娘	項目名	父親の得点	女子生徒の得点	t
	現 実 的	4.74±1.01	4.73±0.96	0.05
	指 導 力 の あ る	5.06±0.94	5.04±1.16	0.14
	背 が 高 しい	4.58±1.05	4.55±1.12	0.22
	理 想 を も っ た	5.32±0.88	5.25±1.00	0.79
	経 済 力 の あ る	5.19±1.22	5.06±1.21	0.83
	活 発 な	5.22±1.00	5.34±1.03	0.98
	積 極 的 な	5.33±0.93	5.19±1.23	1.04
	愛 情 豊 かな	6.15±0.85	6.02±1.05	1.17
	意 志 強 固 な	4.63±1.40	4.39±1.25	1.44
	家 庭 的	5.99±0.96	5.79±1.19	1.51
	個 性 的	5.08±0.95	5.26±1.02	1.52
	社 交 的 な	5.31±0.97	5.10±1.21	1.55
	仕 事 に 専 心 的	5.72±0.99	5.47±1.22	1.79
学 歴 の あ る	4.73±1.06	4.48±1.18	1.80	
男 性 に 一 目 お く	4.52±1.12	4.29±1.03	1.96	

姿を見せたり、仕事を手伝わせたりしている。

(4) 父親が各性に期待する項目は、上位10位に入った6項目「健康な」「愛情豊かな」「忍耐強い」「視野の広い」「仕事に専心的」「頭がよい」までが男女に一致している。人間として必要な要素と考えているとみてよいであろう。

(5) 息子に有意に高い期待をよせている項目は、「男らしさ」として選択した項目と関連している。社会生活を行う上で身につけていることが望ましい要素を含む項目である。

(6) 娘に有意に高い期待がよせられている項目は、家庭的な、かわいい要素を含む項目つまり、「女らしさ」として選ばれた項目と一致している。

(7) 生徒の性役割期待は、全体的な傾向は父親の場合とほとんど変わらない。男女生徒間の認識のちがいが、父親の息子・娘間の期待のちがいとほぼ一致している。

(8) 父親と生徒との認識の差は、男子生徒との間で29項目、女子生徒との間では19項目にも及んでいる。

(9) 父親は、人生経験や社会経験を通しての評価であるため、いずれの項目へも期待が大きい。これに対し、生徒一特に男子生徒は、より理想的に評価していること。生徒の側には、まだ確固たる性役割が出来上っていない、バラつきが大きいことが言える。

以上である。

現実に即して、男性役割、女性役割とも、もう少し中間よりなものとして扱われているかと考えていたが、父親のとらえている「男らしさ」「女らしさ」あるいは性役割は、従来からみられている「男は外、女は内」という仕事分担からくるものが強いようである。

これに対し、生徒は、男子の場合、理想的に評価しているようにみえて、父親と傾向は類似しており、女子の場合、男子ほど父親との評価差がないが、時代の流れを

よくとらえて評価していると言えよう。

方法上、不十分な点もあり、意図する点が十二分に得られたとは言い難い。今後の検討課題としたい。又、父親不在の影響を考えていくためには、父親の考えが子どものかかわりの中で具体的にどのようなにあらわれているのか等についてもみていく必要がある。

最後に、調査に協力下さいました大田市立大田二中の生徒と保護者の皆さんに謝意を表します。

文 献

- (1) D. B. リン著 今泉信人ら訳：父親—その役割と子どもの発達，北大路書房，pp. 154～173, (1981)
- (2) 柏木恵子：青年期における性役割の認知，教育心理学研究，第15巻第4号，pp. 1～10, (1967)
- (3) T. パーソンズ, R. F. ベールズ著 橋爪貞雄他訳，核家族と子どもの社会化上，黎明書房，(1970)
- (4) M. E. ラム著 久米稔ら訳：父親の役割—乳幼児発達とのかかわり，家政教育社，pp. 107～109, (1982)
- (5) 柏木恵子：前掲書
- (6) D. B. リン著 今泉信人ら訳：前掲書，pp. 242～247.